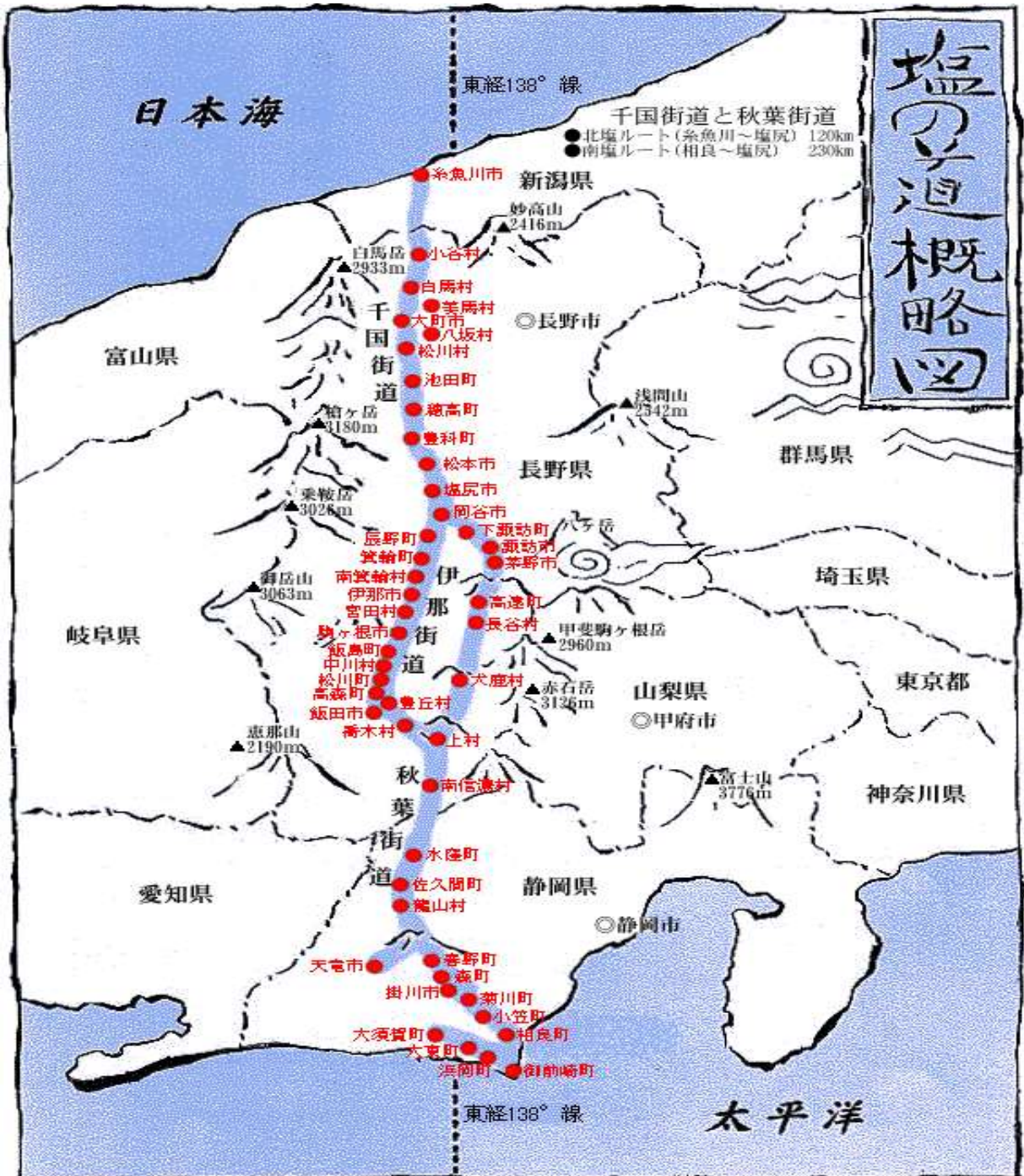


歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

D. 塩の道

「塩の道」は、列島を東西に貫く旧東海道や旧中仙道などの官道とは異なり、庶民の生活を支えるために自然に発達した南北道で、秋葉街道・信州街道及び千国街道・伊那街道などと呼ばれてきた。この道は、古代から近代に至る物流の道、戦国時代の天下取りの道、また、古代から近代にわたる信仰の道として、それぞれの時代を担ってきた。



(図は掛川市制作「塩の道ホームページ」による。)

<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/sionomiti/index.htm>

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

掛川市内の「塩の道」

「塩の道」という名の由来は、海辺で精製した塩を「かます」に詰め、川舟や馬の背・荷車等に乗せて塩のない内陸部に運んだことによる。市内にはいくつかの「塩の道」があったが、代表的なのは相良からの道で、市内へは南東の上内田から入り北西の原田へ抜けて行く道である。菊川市の御門や市内の上内田、旧市内の塩町には塩問屋があった。

現在「日本海・太平洋塩の道会議連絡協議会」によって示されている道もこの道だが、古道そのものではない。近年の土木工事などによって昔の道が失われ、通行不能になっている所があるからだ。現道の分岐点には「道標」が、また、要所には「塩の道モニュメント」が設置されていて歩きやすい。雰囲気味わい昔をしのいでゆっくりと歩くのに適した道だ。

市内の「塩の道」は、次の四つに区分すると分かりやすい。どの区間も大人向で、駐車場、トイレ、食事場所等が限られるので、あらかじめ計画を立てて歩くことをお勧めする。

D1 菊川市応声教院から陣場峠、掛川市立病院まで

菊川市の応声教院を出て県道掛川小笠線（県道386号）を市内方面へ向かい、交差点を過ぎて御門橋の手前（川沿いではなくもう一本手前）を右折する。御門の秋葉燈三叉路を左に下り、上小笠川沿いに生活道路を進んで一旦県道へ出て市内に入る。再び旧道へ入り、桶田、段金谷、上内田、さらに下板沢から静鉄バス大坂線下りの青田停留所に出る。そして、その横にある秋葉神社祠左の狭い坂を上り、茶畑の中を陣場峠に至る。



（上内田小から見た塩問屋跡、暗闇坂方面）

この区間には、段金谷の「秋葉燈・庚申塔・平成復刻の自然石道標」、上内田の「塩問屋跡（一般住宅）」「暗闇坂（木が覆い昼なお暗い坂だったが今はその面影はない）」、下板沢の「自然石道標」「秋葉燈」「板沢神社」、上板沢青田の「陣場峠」などがあり、なだらかな茶畑の中を歩く道は歩いていて楽しい。特に陣場

峠は、家康の掛川城（今川）攻めの拠点で、眼下に市内、遠くに南アルプス、富士山などが望めすばらしい。掛川市立病院側へ下りる道は非常に急なので注意が必要だ。「塩の道」古道は、陣場峠には寄らず左の茶畑と草藪の中を矢崎交差点へ直接下りる。通行は可能だ。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）



（段金谷の秋葉燈・庚申塔）



（陣場峠からの粟ヶ岳方面を望む）

この間、青田バス停から陣場峠までを除き車でもよい。駐車場・トイレは、応声教院、板沢神社、掛川市立病院にある。子供連れでもよいが大人向きである。食事のできる所は青田トンネルより北側に何軒かある。

また、土産は、青田バス停から掛川大東線（県道38号）を少し下った、板沢バス停の近くの丸山製茶で掛川茶が買える。そこで経営する向かいの菓子店「きみくら」には、掛川茶に合った和菓子があり、お茶とセットになった土産も販売されている。



（自然石の道標）



（板沢神社から県道掛川大東線方面を望む）



（陣場峠の野菊と塩の道モニュメント）



D2 掛川市立病院から秋葉道団地入口まで

市立病院から県道掛川大東線（県道38号）へ出て、東名高速道路のガードをくぐる。すぐ右側に「味千ラーメン」の看板（店は道の左）がある。その看板の奥の荒地の中に「素掘りのトンネル（本来の「塩の道」は、この上を通っていたが茶畑になっていて通行不能）」がある。頭を下げてくぐって進むと市道の交差点へ出る。そこを道標に沿って進み、新幹線をくぐり、東海道線を渡ると旧東海道の七曲へ出る。「塩の道モニュメント」「旧東海道のモニュメント」「七曲の説明板」「東番屋跡」などがあり、近くには「秋葉燈」もある。さらに進むと「塩問屋」が立ち並んでいた塩町（現在は地名が残るのみ）に至る。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）



(素掘りのトンネル)



(七曲の説明板と旧東海道のモニュメント)

市内へはもう1本別道がある。味千ラーメンの交差点北西角の「揚張神社」を経て、「大日寺（キリシタン灯籠が有名）」の東側を通り、家並みを抜けて新幹線・東海道線ガード手前で県道掛川大東線（県道38号）へ出て塩町に至る道である。

塩町から向こうの旧市内を通って大池橋までのコースは、旧東海道と重なるのでそちらの項に譲る。ただし、十九首からは逆川を渡って旧国道1号線を横断する。そして、最初の細道を左折し、倉真川の土手に出て大池橋に向かう。土手からの眺めはなかなかよい。本来の「塩の道」は旧国道1号線と重なるが、交通量の関係で歩きやすい道筋をとっている。

大池橋を渡るとすぐ五叉路になるが、川沿いの一番右の道へ曲がる。曲がるとすぐ細い生活道路がありそこを左に折れる。10mも進むとすぐ「秋葉山遥拝所（秋葉山に参拝できない東海道を急ぐ旅人がここで折った）」の裏に出る。さらに標識に沿って細い道を進むと「県道掛川森線（県道40号）」に出る。道なりに進み右に折れ、国道1号線バイパスの下をくぐって、秋葉道団地入口の交差点北東にある「秋葉燈」に至る。旧道は、県道40号に出ず、北に向かい秋葉道団地を巻いて「十二所神社」に至るが、現在通行不能である。



(秋葉山遥拝所)



(遥拝所近くの古瓦)



(倉真川の眺め)

「素掘りのトンネル」はもちろん車は通れない。七曲にも、大池橋付近にも駐車場はない。また、大池橋から秋葉道までの生活道路は、非常に細く車の通行は無理である。駐車場は、掛川市立病院、旧市内の駐車場である。トイレは、掛川市立病院、掛川城公園、掛川駅等にある。食事場所は旧市内にたくさんある。子供も不可能ではないが、大人向きの道である。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

D3 秋葉道団地入口から家代、細谷まで

秋葉道団地入口交差点を北進して「新田の切通し」を抜けた所で、最初にあるアパート際の細道を左折西進すると「十二所神社」の門前が出る。そこに「塩の道モニュメント」がある。さらに標識に沿って進むと垂木川にぶつかる。川沿いにしばらく北上すると集落の中に「秋葉山常夜燈（金属製の変わったもの）」がある。さらに進み、突き当たりを左折して「小津根橋」を渡る。渡ってすぐ右折し垂木川沿いに進む。150mほど真っ直ぐに進むと道は川を離れ家並みに入る。そこには「六地藏（道の左にあり、石彫りの小さいものなのでよく見ないと見落とす）」「秋葉燈・石の道標（右側の大工さんの家の前にあるが、掘り出したものらしく秋葉燈に立掛けてある）」が揃っていて、いかにも「塩の道」らしい所である。



(六地藏)



(「左あきはみち」の文字)



(秋葉燈・道標)

さらに北上し、空き地の所を左折して西進すると家代川にぶつかる。川沿いに右折して北上する。いくつか橋があるが、その中の「江津橋」を左折して渡る。桜木保育園を右手に見て道なりに進むと「福来寺」の下に出る。そこに「秋葉燈（最近建てた鞘堂で、火袋は福来寺にある）」「塩の道モニュメント」がある。ゆったりとした感じのよい所である。そこを左折して西に向かい「宇洞トンネル（古道はトンネル上の細谷村ノ峠を通過していたが、今はゴルフ場になり通行不能）」をくぐってしばらく行くと、県道掛川森線（県道40号）に出る。

この区間は、垂木川、家代川沿いの古い道で、道は狭く車のすれ違いは難しい。しかし、のどかで豊かな雰囲気満ちており、やはり歩くのを楽しむ大人向きの道である。駐車場・トイレは、「十二所神社」「福来寺（駐車は広い路側）」にある。

食事は、県道掛川森線（県道40号）のいこいの広場入口の所にある和食処「たかやま」がよい。腕の良い板前である御主人の作る料理はすばらしい。

また、いこいの広場入口を南進してヤマハのバイク教習所の方へ右折すると、市内最大の「和田岡古墳群（国指定文化財）」に出る。車でないと行けないが、ここも一見の価値がある。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）



(江津橋)



(福来寺下の秋葉燈鞘堂・塩の道モニュメント)

D4 細谷から原田まで

「宇洞トンネル」を出て県道掛川森線（県道40号）に出る直前に、軽自動車がやっと入れる程の生活道路がある。そこを右折して家並みの中を山の手に向かうと、行く手の森の中に「若一王子神社（急な石段を上ると、小ぶりでかわいい狛犬を置いた社殿があり、あたりは森閑として厳かである）」が現われる。



(可愛い顔の狛犬)



(若一王子神社)

神社を左回りに巻いて静かで趣のある里中の道を進む。集落の中の三叉路を左折西進すると県道掛川森線（県道40号）に出る。右折して県道を100m程行き、床屋の手前を水路沿い（「塩の道の道標」がある）に右折する。右折するとすぐに一人一人が通れるくらいの水路沿いの道がある。そこを左折する。やがて道は広くなり、しばらくは明るい田んぼ中を県道掛川森線（県道40号）と平行して進む。すると、県道原谷倉真線（県道81号）にぶつかる。横断して進むと、左へ大きく曲がるゆるい下り坂である。下り切った所を右に入る。道は点在する住宅の中を少し上るが、下った所が「長福寺」である。

「長福寺」は、赤い山門を備えた古刹で、門前に「秋葉燈」「石の道標」「塩の道のモニュメント」等があり、市内「塩の道」の白眉といえる。本堂の裏山には鞘堂に入った大きな「役の行者堂」があり、釣鐘の伝説を今に伝える。この裏山からの眺望はすばらしい。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）



(道標・モニュメント)



(「左あきはみち」の文字)



(門前の秋葉燈)



(長福寺山門)



(本堂裏からの眺め)



(役の行者堂)

長福寺の門前にある「道標・塩の道モニュメント」の前を左折して西進し、県道掛川森線（県道40号）を横断した所に比較的新しい「石の道標（長福寺・役の行者堂・八幡神社までの距離が、昔の距離単位〈町〉で表示してある）」がある。さらに進んで、原谷の町を通る旧県道を突っ切って細い生活道路を行くと「天竜浜名湖鉄道」の小高い線路に突き当たる。線路沿いに右折すると原谷川の土手に出る。



(天竜浜名湖鉄道と道標)



(原谷川土手からの眺め)



(原谷橋から上流を望む)

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

土手を離れ、道なりに右手の家並みの中を行くと町筋から北上して来る旧県道に出る。そこを左折し「原谷橋」を渡る。渡ってすぐ左折し坂を上り切った所を右折する。下りの道を進んで天竜浜名湖鉄道の踏切を渡る。さらに道なりに進むと森の中にある「猿田彦神社（猿田彦は旅の神で、古々しい社殿はいかにも塩の道の守護神といった感じである。鳥居前に塩の道モニュメントがある）」に着く。神社の裏には整備された茶畑が広がり、原野谷中学校、建設中の新東名高速道路などが見渡せて清々しい。



(モニュメント)



(木立の中の猿田彦神社)



(猿田彦神社裏の茶畑からの眺め)

猿田彦神社左の急な坂道を下ると、天竜浜名湖鉄道の「原田駅」の裏に出る。駅を右手に見てさらに進むと、道は荒れて寂しくなる。訪れたのが秋だったので、道は芒に被われ、植林して放置されていると思しき栗の木から落ちた毬で埋め尽くされていた。車の通行は無理である。その道を進むと、天竜浜名湖鉄道に近づき、踏切を越えてくる旧県道に突き当たる。上には新東名高速道路が偉容を見せる。「猿田彦神社」からここまでは、県道掛川森線（県道40号）とほぼ並行するが両者をつなぐ道はない。



(原田駅裏の道)



(芒の道)



(農作業小屋のある道)

さて、猿田彦神社から先の本来の「塩の道」は、原田駅裏を通過した所から天竜浜名湖鉄道の線路、さらに県道掛川森線（県道40号）を横断し、右手の山上を通って森町に抜けていたが、現在は踏み切りの廃止と新東名高速道路の工事のために通行不能である。

ここまでが市内の「塩の道」である。この先は、旧県道掛川森線左折して進み、さらに右折して新東名高速道路の下をくぐり（近くに新東名の「森・掛川インター」ができる）森町に入る。そして、「善正庵池」の脇を通り「賀茂神社」「秋葉山常夜燈」を経て天竜浜名湖鉄道「戸綿駅」に至る。それから、道は延々と糸魚川まで続くのである。

ところで、初夏を彩る花菖蒲で有名な「加茂荘」は、長福寺から県道掛川森線（県道40号）を北進し、原谷大橋の手前を右折（案内板あり）して1km程である。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）



(突当りの旧県道から県道40号を望む)



(市境を行く天竜浜名湖鉄道)

細谷からこの間は所々に細い道があり、やはり車の通行は無理である。計画を立てて歩くのを楽しみたい。子供向きの道ではない。食事は、県道掛川森線沿いに何軒かの食堂がある。駐車場は「若一王子神社」「長福寺」にある。「猿田彦神社」は車1台分くらいのスペースしかない。トイレは「若一王子神社」「長福寺」にある。

「塩の道」情報

- 1 問合せ 掛川市商工労働観光課 TEL 0537-21-1149
- 2 「塩の道ホームページ」(日本海・太平洋塩の道連絡会議協議会編)
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/sionomiti/index.htm>
- 3 「掛川市サイト」(「観光・ロケ」の欄所収)
<http://lgportal.city.kakegawa.shizuoka.jp/>
- 4 参考図書
 - ①「塩の道ウォーキング」静岡新聞社発行 県内に限定され、地図がよい。
 - ②「塩の道ウォーク」井上 如著
日外アソシエーツ発行 全行程の道取りに詳しく、
「塩の道」に関連した種々の情報が掲載されている。

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

また塩の道には、こんな素敵な景色やお店があります。是非一度お出かけ下さい。

塩の道近くの景色街道

D5 三十川のコスモス街道 （掛川市家代の三十川（みそがわ））

国道一号線のバイパス大池 IC を潜り、西部交番の交差点を真直ぐ北上 1.5km。Y 字路を左折して、桜木小学校の入口を過ぎ、道なりに進む。始めて信号から三十川のコスモス街道が始まる。約 1km 続く。三十川自治会が丹精込めて育てている。毎年 7 月の草刈に始まり、下旬に種まきして 9 月中旬に開花、10 月初めの秋祭りごろ満開となる。平行して流れる家代川の堤にもコスモスが続く。季節に、塩の道



を尋ねるときはお忘れなく！！

駐車場：無 トイレ：無

同伴：家族で



歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

喫茶・文具（隠れ家的雰囲気）

D6 ステーションリーカフェ konohi

掛川市家代855-1

民家を改装した喫茶店兼文具店で、知る人ぞ知る隠れ家的雰囲気の癒しの空間。

コーヒーの他、特製スープと手作りパンが御自慢。

文具は、品揃えは多くないが、拘りの品が並ぶ（外国製品が多い）。



夕暮れ時の店内（文具売り場）



昼間の店内（喫茶スペース）



左の写真は、
スープとパン
2個700円、
パン2個250円、
コーヒー
400円。



掛川市街から北西に約5km、「D5 秋にはコスモスが咲き誇る道路」沿い。

掛川駅北口から西に一本道、やがて道は北向きに転じる。掛川駅から2.2km、国道一号線の大池西交差点を渡る。北上2.0km。右上の写真の交差点（「製菓橋本屋」が目印）を左に入る。北上1.0km、左手に店がある。

店を見落とさぬように注意（左の写真の小さな看板が出ている）。店の更に北に駐車場。

営業時間：火曜日～土曜日の正午～午後7時

駐車場：有（4台）無料

同伴：一人ぶらり・親友と

問合せ：0537-26-1036

ブログ：<http://konohi.hamazo.tv/>

歴史街道と掛川（東海道と塩の道が交わるまち）

「ちょっと一休み」

「報徳訓」

父母の根元は天地の令命に在り 身体の根元は父母の生育に在り

子孫の相続は夫婦の丹精に在り 父母の富貴は祖先の勤功に在り

吾身の富貴は父母の積善に在り 子孫の富貴は自己の勤勞に在り

身命の長養は衣食住の三に在り 衣食住の三は田畑山林に在り

田畑山林は人民の勤耕に在り 今年の衣食は去年の産業に在り

来年の衣食は今年の艱難に在り 年年歳歳報徳を忘るべからず

お父さん・お母さんが何故いるのかというと、それは、それぞれにおじいさん・おばあさんがいたからです。おじいさん・おばあさんには、そのまたお父さん・お母さんが・・・というように、ずっとさかのぼっていくと天地（大自然）の命ずるところにいきつきます。

さて、自分がこうしていられるのは何故かということ、それはお父さん・お母さんが大切に育ててくれたからです。また、自分の子供や孫が心豊かに生きていくには、そのお父さん・お母さんの愛情と努力が必要です。

お父さん・お母さんの豊かな生活は祖先の働きと努力があったからです。自分の豊かな生活は、お父さん・お母さんが良い行いを積み重ねてくださったおかげです。自分の子供たちが豊かな生活を送るためには、今、自分が真面目に学び働くことが大切です。

ところで、元気で長生きするためには、衣・食・住の三つが大事です。この衣・食・住という人間の生活のもとになるのは、自然の恵みを生み出してくれる田畑山林です。その田畑山林も人々の働きがなければ恵みを生み出しません。今年の衣・食は昨年一生懸命働いたおかげです。来年の衣・食は今年の苦勞や頑張りにかかっています。

色々なものの良さを引き出す努力（報徳）を、いつまでも、いつまでも忘れないことが大切なのです。